

国内産広葉樹と為替と服部雅章の独り言

日本国内で使われている全体の広葉樹原材料の本当の数字は解りません。広葉樹も針葉樹と同じように最高品質の突板用材から紙にする広葉樹チップまで有ります。又海外で生産されて輸入される家具・建材商品の完成品・半完成品も含んで日本国内で最終消費される商品もあります。従って服部雅章の経験からのお話です。

日本国内で国内産広葉樹が主流になって使われていたのは1980年位迄だと記憶しています。(当時の為替レートは1ドルがおよそ220円前後でありました。)

当時から国内産広葉樹原料の供給は徐々に少なくなる傾向がありましたが、当時はまだ私達は日本の森林から永続的に供給が継続すると勘違いをしていました。

2002年7月に勃発した鈴木宗男代議士と北海道帯広に当時あったヤマリンと言う会社の事件が有りました。(この事件は討伐の事件です。)

この事件後から急速に北海道産広葉樹の原料供給は激減の一途をたどることとなりました。当時はおよそ全道に100工場以上の広葉樹専門工場が有りましたが、2022年現在北海道に有る広葉樹専門工場は10社も有りません。

つまり国内産広葉樹の原料が海外産に大きく移っていく過程と、為替レートが円高になる傾向がほぼ重なっていました。

1990年のバブル崩壊以降日本経済は長いトンネルに突入したのですが、それを(デフレ経済)支えてきたのが安価な海外産広葉樹原料なのです。

2022年現在日本国内の家具業界から建材業界や木工業界を支える広葉樹原料は国内産だけでは賄いが出来ません。(ここが国内産針葉樹と全く違います。)

現在の日本国内の広葉樹原料を扱う全業種に、海外産広葉樹原料の比率と実際に採算が合う為替レートの調査資料が有れば先々のことを説明できるのですが、その資料のヒントも有りません。(この当たりの資料をお持ちの方がいらっしゃいましたら是非お知らせ頂きたいと思います。)小生の長年の経験からのお話をします。広葉樹原料をどの程度国内産で賄えるのか。推定30%位だと思えます。残り70%は海外産で賄うか、それとも非木材にならざるを得ないと思えます。非木材資源とは塩ビシートに転写する建材が今以上に増えることを意味しています。それは仕方がないと思えます。

海外産広葉樹の原料単価を為替レート1ドル=150円で計算すると2022年当初のおよそ30%以上の価格改定をお願いしなければなりません。

為替レート1ドル=150円が継続するかは解りませんが2020年のパンデミック以前の価格に戻ることはありません。

従って物づくりの根幹が大きく変化することも想定しています。

服部新聞の購読者の皆様には新しい発想で物づくりをして頂きたいと思えます。

大阪は負けました。

2014年から始めたアメリカ材の直接輸入ですが、2023年のシーズンから卸す港を大阪から名古屋に移さざるを得なくなりました。2022年は何とか大阪の荷役会社でコンテナの出盤は出来ましたが、2023年度は断念しました。

大阪港の木材関係の大部分は製材品に特化した為に、原木で輸入することが不可能になりました。作業をする会社もなければ人もいないのです。

服部商店がある岸和田の港は、2021年1月以降木材関連の一部の荷役（木材チップと製品だけ）は行っていますが、原木の荷役は完全に辞めました。

大阪から名古屋に荷役作業を移しますが、名古屋でさえ最盛期の20分の1以下になっていると思います。今回の事は服部商店の商いのあり方も変化を求めているのかも知れません。そう受け取って新しい服部商店を目指します。

アメリカ材発注と服部商店の目標

2022年10月22日の為替レートは1ドルが145円です。前のシーズンは1ドルおよそ117円で決済出来たので28円のコストアップになります。（20%以上コストが上がる計算になります。）

又航空運賃・宿泊代等の経費も2020年1月にアメリカに出かけた時と比較すると物凄いコストアップになります。

2020年度の宿泊代は115ドル（105円）およそ12,000円。2022年の宿泊代は130ドル（145円）およそ19,000円です。ランチ及びディナーが2020年は50ドル（6,000円）が80ドル（12,000円）です。

航空運賃も240,000円位が400,000円になっています。

国内の作業経費も上がり、実質コストが倍近くなる様に思います。

しかしおよそ10年かけて築いてきたアメリカ材の直接取引を辞める選択肢はありません。10年に1回損をしたくらいで辞めたら皆様に良質材の供給が出来なくなります。

トップページでご説明をしましたが、日本国内の供給が継続して可能な広葉樹原料の正しい数字を持ち合わせていないので何とも言えませんが、色んな所で樹種変更が起こっています。額縁業界はヒノキの間伐材にシフトしています。又家具も針葉樹に大きく移行する可能性は十二分に考えられます。しかし海外産、特にアメリカ産広葉樹材に頼らざるを得ないマーケットはがどれくらいあるのかは全く解りませんがマーケット全体の50%の比率で必要だと思います。2023年度の服部商店の海外産広葉樹の依存率の目標はおよそ50%です。2022年現在およそ70%が海外産なので容易ではありませんが、世の中流れが変化を求めていると感じています。

国内産広葉樹の販売目標が達成出来るよう頑張ります。

天然木曽檜・天然桧・人工ヒノキ & レッドオーク祭り

広葉樹材の供給状況はパンデミック以前の状況には戻りません。
特にホワイトオーク・ブラックウオールナット・ナラ・タモ材の良
質材は取り合いになっています。

服部商店は考えました。皆様に服部商店のホームページに掲載し
ている天然木曽檜・天然桧・人工ヒノキと、アメリカ広葉樹で最も
安定供給が可能なレッドオーク（ノーザン地区）を使った新しい物
作りに挑戦して欲しいです。

その為の応援セールです。

2022年11月1日～2022年12月31日受注まで

20%OFFにて提供致します。

柱目板・板目板・耳付き・角材等、全ての商品が対象です。

この機会に新しい物作りにチャレンジしてください。

ウクライナ危機早く終われセールも対象となります。

ウクライナ危機早く終われセール

2022年11月1日～11月30日

お得意先様向けのキャンペーン

毎週先着にて、30,000円以上（木材代金のみ・消費税・諸経費を除いて）御
買い上げの5名様に、アマゾンギフト券5,000円を差し上げます。

新規のお客様限定のキャンペーンを実施

50,000円（木材代金のみ・消費税・諸経費を除いて）以上お買い上げの全員
に、アマゾンギフト券10,000円を差し上げます。

